



発刊に寄せて

原田正純

(熊本学園大学教授)

アジアは多くの産業災害を経験してきました。悲惨なカドミウム汚染やヒ素中毒の発生、深刻な大気汚染、水俣病の惨状、数千人の死者を出したボパールでのイソシアン酸メチル四〇トンの漏洩事故などです。最近まで、最悪の職業上の殺人者がその姿と名前を隠して数十年間、職場、家庭、学校、そして地域に潜んでいました。長い間、政府と企業は、この殺人者の威力に無関心であり、経済成長と利益の方ばかり関心を示していました。死者の数が増えるにつれ、人々は皆、男も女もそれぞれにその理由を捜し始めました。そして同じような被害を受けた人々が一緒になって、彼らの未来を奪おうとしている沈黙の殺人者の正体を暴露しました。それがアスベストです！

多くの先進国によって注意を払うよう警告がなされた後も長い間、日本はクロシンドライトとアモサイト・アスベストを使用し続けていました。新しい世紀が始まった時にさえ、日本はまだ世界で最大のクリソタイル・アスベスト消費国のひとつでした。アスベスト疾病の罹患率と死亡率が増加するにつれ、アスベストの危険性についての公式な否定は弱まり、死をもたらすアスベ

スト繊維が容易に突き抜ける肺の胸膜のように薄くなつていきました。クボタ、ニチアス、(旧)朝日石綿のような日本で尊敬されていた会社による不作為への疑惑の感情が一気に怒りに変わり、かつては忠誠心のあつた従業員たちが、造船所、アスベスト・セメント工場、自動車工場などを危険な状態に放置したことに責任がある会社を公然と批判するようになりました。

会社や政府による補償もなく、医療に関する情報もほとんどない、あるいは全くない状態で、患者とその家族は、本来は完全に予防できたはずの疾病によつて苦しめられてきました。病にある労働者、悲しみにくれる家族、公衆衛生活動家、労働組合運動家らが、大阪、横須賀、横浜、尼崎などの多くの閉ざされたドアの向こうで起きていた隠された悲劇を知らせるために力を合わせるようになりました。被害者団体が結成されると、活動家は日本でこのように多くの無実の命を奪つたこの疾病が他の諸国の労働者にも害を及ぼしていることを見いだしました。このような危害を与えているのに、カナダの利害関係者に率いられたアスベストのセールスマンは、アジアの新たに工業化されつつある諸国で積極的に市場を開拓していました。

日本のアスベスト疾病の流行は始まったばかりであり、今後数十年間に数万の人々が亡くなるでしょう。数十億円の資金が被害者対策や公共基盤からのアスベスト除去のために必要となるでしょう。それなのにアスベスト産業界は消費者に対し、アスベストは「管理」をすれば安全に使用することができると言いつつ続いています。このようなことは日本で起きてはならなかったことですし、他のどこでも起きてはならないことです。アスベストの道を歩み続ける国は、ルピーやバーツなどの金銭的な対価だけでなく、失われた命と残された家族の悲しみへの対価を払わなくてはならないでしょう。アスベストの唯一の安全な使用は、使用しないことです。

(オリジナル英語版に寄せられた序文を翻訳)

はじめに…怠慢の百年間

ローリー・カザンアレン

(国際アスベスト禁止事務局 (IBAS)* コーディネーター)

一八九九年、三三歳の患者はロンドンの病院で呼吸困難症に罹っていると告げられ、一四か月以内に死亡した。彼は、アスベスト織物工場の毛羽立て室で働いていた二〇人のうちの最後の生き残りであった。モンターギユ・マレー博士によって一九〇六年に英国議会に報告されたこの無名の患者の事例は、公式に報告された最初のアスベスト関連の死亡であり、アスベストにより引き起こされる人の健康への危険性は、その後フランス(一九〇六年)、イタリア(一九〇八年)、ブリテン(一九一〇年)、そしてアメリカ(一九一八年)でも確認された。そして、ヨーロッパ諸国の政府がこの危険性を知ってから一〇〇年も経った後ですら、アジア諸国の中でアスベスト使用が増えているところがある。

比較的最近まで、アジアにおけるアスベスト使用に関する情報はなかなか入手できなかったが、それは初めの頃はデータ不足のためであり、最近では翻訳資料が不足していたためである。二〇〇四年に日本で、二〇〇六年にタイで開催された画期的な会議はこの情報不足に終止符を打ち、医学研究者、疫学者、技術者、その他の著名な専門家らが、各地域でのアスベスト及びアスベスト含有物の消費に関する豊富なデータの詳細を明らかにした。アジアの船舶解体現場にお

* 国際アスベスト禁止事務局 (IBAS) については、94頁下段の説明を参照されたい。

本書のオリジナル英語版『Killing the Future: Asbestos Use in Asia』は2007年7月に出版され、以下でPDF版を入手することができる (http://www.lkaz.demon.co.uk/ktf_web_fin.pdf)。本書はローリー・カザンアレン氏の提案と了承のもとに、石綿対策全国連絡会議の編集によって発行されるその日本語版である。